

ベトナム視察研修（後編）

BATIME X技能実習施設を視察

全国管工事業協同組合連合会

本誌4月号に前編として掲載したホーチミンでのタブチベトナム視察に引き続き、後編ではハノイにおける技能実習施設の視察を紹介する。なお、今回の視察は、本会理事・広報部長、神奈川県管工事協同組合連合会副会長で、実習生を日本へ受け入れる監理団体「アジアビジネスサポート事業協同組合」の理事長でもある原 宣幸氏のご尽力により実現した。

○ハノイ市概要

2月20日、ハノイ・ノイバイ空港へはホーチミン・タイソンニャット空港から2時間ほどのフライトで到着した。一昨日、真冬の日本から約6時間・3,600kmを超えるフライトの末に降り立ったホーチミンの気温は30℃を優に超え、町の喧騒とともにその暑さに辟易していたものの、ここベトナム北部のハノイは寒いというよりは過ごしやすい適温であり、幾分活力を取り戻した。

ハノイは、ベトナム社会主義共和国の北部に位置する同国の首都であり、ホーチミンに次ぐ第2の都市である。ホーチミンが経済の中心であるのに対し、ハノイは同国の政治・文化の中心であるという。ハノイは北緯21度、ホーチミンは北緯10度であるから11度ほど北に移動してきたものの、沖縄県那覇市が北緯26度であることを勘案すると、想定外の涼しさとも言える。人口は約759万人あまりで、愛知県の人口（約726万人）

よりちょっと多いくらいである。

○外国人技能実習生制度とは

今回のベトナム視察研修は、ホーチミンのみの視察と、ホーチミンとハノイの両都市を巡る2コースが設定されたが、参加した役職員総勢33名のうちの凡そ3分の2がハノイでの視察を希望したことから、今回訪問する技能実習施設と外国人技能実習生制度に対する関心の高さがうかがわれた。

外国人技能実習制度とは、我が国が先進国としての役割を果たしつつ、国際社会との調和ある発展を図っていくため、技能、技術または知識の開発途上国等への移転を図り、開発途上国等の経済発展を担う「人づくり」に協力することを目的に、平成5年に創設された。昨今、日本における労働力不足は業界を問わず蔓延しているが、同問題を解消する一方策としても、外国人技能実習生の有効活用が考えられており、特に人手不足が深刻

外国人技能実習生制度

- ◆実習実施機関は、技能実習を実施するとともに、技能実習生の生活管理にも細かく配慮するなど、技能実習が円滑に行われるようにすることが求められます。
- ◆監理団体は、技能実習期間中、実習実施機関において技能実習が適正に実施されているか確認し指導することが求められます。
- ◆送出国は、実習生の選抜から帰国まで、監理団体と協力して技能実習が円滑に行われるよう取り組むことが求められます。

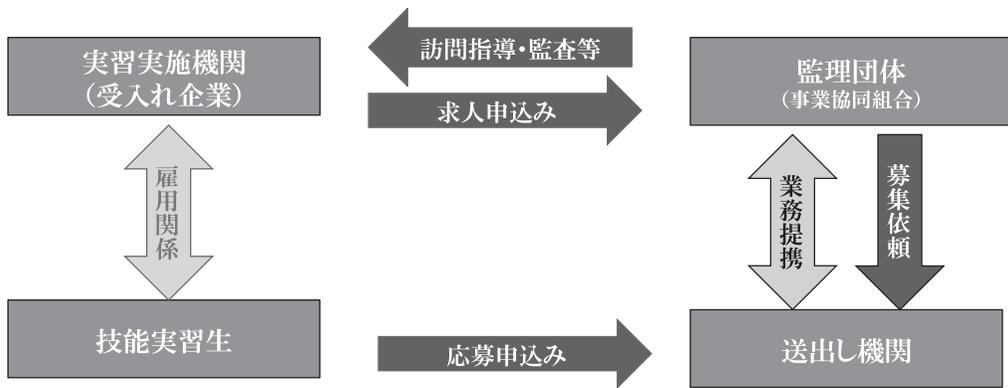


図-1 外国人技能実習生制度の概要（アジアビジネスサポート事業協同組合資料より）

な建設業界においては、平成27年度より実習期間を3年から6年へと延長したことにより、同制度が脚光を浴びることとなった（平成32年3月までの時限措置。また優良な実習生及び監理団体等の制限あり）。同制度の概要は図1のとおりであり、今回はベトナム側の実習生送り出し機関である2施設を視察する。

○BATIMEX配管職業訓練施設

ハノイ・ノイバイ空港は、日本で言うと成田空港のごとく都市部から少々離れた場所に位置するようで、我々が乗ったバスの車窓からは、日本の僻地でもお目にかかれそうな農村の風景が広がってい



BATIMEX配管職業訓練施設

るが、点在するカラフルに着色されたお墓だけは異国情緒を漂わせている。そんな風景を眺めながら、空港より凡そ20分ほどバスに揺られ、両側に商店街が並ぶ狭い道の先に、本日最初の視察地である「BATIMEX配管職業訓練施設」は

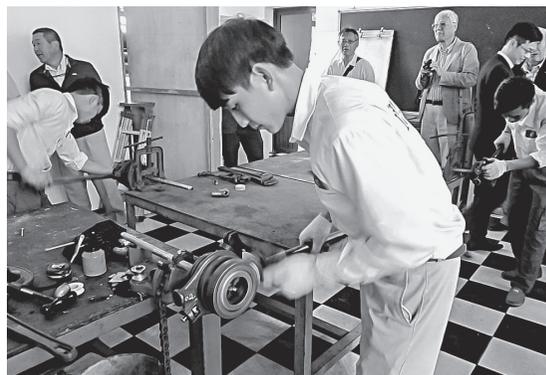


設備は意外なほど充実していた

あった。

非常に広い敷地を有する同施設内にはいくつもの建物があり、主に建築系の職業訓練施設のようで、生徒の寄宿舎も併設されているという。我々はまず、入り口に「歓迎！全国管工事業協同組合連合会」と書かれた赤い垂れ幕の掲げられた配管職業訓練施設に案内された。今日は土曜日なので休校日であり、生徒と思しき姿は見られず残念ではあるものの、我々のためにわざわざ開けてくれたことにまず感謝しなければならない。施設は、意外と言ったら失礼かもしれないが、十分な設備が整えられているように見受けられた。様々な配管や継手類が展示され、中には技能五輪を彷彿させる見事な作品もあり、参加者は興味深げにそれらに見入っていた。

屋外にある管の埋設を実習する施設などを見学しながら続いて案内された施設では、3名程度の生徒が手動ねじ切り機を使って鋼管のねじ切りを行っていた。我々のために、休日にもかかわらずデモンストレーションを行っている彼らに対しては頭の下がる思いであるが、彼らの



鋼管ねじ切りのデモを行う実習生

手際の良い作業風景からは、意外なほどの技能の高さを感じられた。

○BATIMEX第1センター

BATIMEX配管職業訓練施設での視察を終えた我々は、バスで1時間ほど移動し、次の視察先である「BATIMEX第1センター」に到着したが、同施設での歓待ぶりは我々の予想を遥かに超えるものであった。200名を越えようかという生徒が整然と校庭に並び、我々の到着を出迎えてくれていたのだ。また、校舎の正面には先ほどの施設の何倍もあろうかという華やかな垂れ幕が高々と掲げられている。さらに、校庭に整列する多くの生徒たちは、日本から来た我々を「幸せなら手をたたこう」などを含む数曲の日本の歌で歓迎してくれたのである。彼らの流暢な日本語による歌には感心させられたが、外国人技能実習生として来日する生徒らに日本語教育及びその文化を教えることこそが、同施設の大きな目的のひとつでもあるのだ。盛大な歓迎の儀式のあと、施設の案内をしてくれた同施設の校長は日本人であり、埼玉県より奥様と



BATIMEX第1センター



歓待を受ける参加者



大澤会長の話に耳を傾ける生徒たち

ともにベトナムに渡り、この地で日本語教育に努めておられるのだという。先ほど我々を出迎えてくれた多くの生徒たちは、今は各々の教室に戻り授業を受けている。その様子を見学させてもらったが、二十歳前後の生徒が多いようで、全て自費で入学しているだけあり、授業へ取り組み姿勢も真剣そのもの。我々からも生徒たちにいろいろと質問してみたが、今春にも北海道の水産加工場へ就職するという答えが多かった。若年労働者不足が顕在化して久しい日本に、一時的ではあれ、若き労働力を提供してくれる彼らに対しては素直に感謝しなければならないし、彼らの貪欲とさえ思える学習意欲を見ていると、今でこそ日本には及ばな

いであろうベトナムの経済力が、日本と肩を並べるのもそう遠くはないのかも知れないとさえ感じられた。

○管材料一式を寄贈

ひと通り教室を見学した後に向かった先は、我々の来校を祝福するひとときわ大きい横断幕が飾られた部屋である。全管連では、今回の技能実習施設の視察にあたり管材料一式を寄贈することとしており、そのための式典会場を用意してくれていたのだ。正面に進み出た大澤会長は、この国の発展を支える若き人々の能力向上の一助となれば幸いであるという主旨の言葉とともに目録を手渡し、目録を受け取ったBATIMEX社の取締役顧問であるヴー・ヴァン・チュン氏からは、管材料の寄贈に対する感謝の言葉及び感謝状と、黄色と赤のコントラストが見事な花束が大澤会長に手渡された。

○終わりに

今回、4泊5日という少々強硬なスケジュールではあったものの、ベトナムの2大都市において水道に係る視察を行っ



管材料を寄贈する大澤会長

た。ホーチミンでは、優良な管材料等の供給を通じてベトナムの水環境改善に寄与するタブチベトナムの活動、そしてハノイでは、高い志をもって技能実習・語学研修に励む若き学生達を見学した。しかし、今回のベトナム視察研修を通じて最も心に残ったのは、活力に溢れたベトナムの人々の姿だ。確かに、日本と比べたらモノが溢れているわけでもなく、道路は常に埃っぽい感じで未舗装部分も度々見られ、路上で売られている食べ物をそのまま口にしたいとお世辞でも言えない衛生状態である。しかし、路上で何をすると無く（？）大勢でたむろし、また、バイクの大集団で道を行き交うベトナムの人々、とりわけ若い人たちの活力に触れると、都市計画に基づき隅々まで整備された各種インフラ上で粛々と生活をする日本の風景は、とても殺風景に感じてしまう。いわゆる「先進国」であり、かつ高齢化社会の最先端に行く日本国に住む我々が、このような真逆とも思えるベトナムの風景に何故か心打たれるのは、我々もかつてはそうであったという「懐かしさ」のためなのかもしれない。



感謝状と花束が手渡された



ベトナムの街には若い力がみなぎっている

最後に、今回の技能実習施設の視察にあたり、計画段階より適切なアドバイスをいただき、また現地においても滞りの無い視察をサポートし、さらには参加者の皆様を厚くおもてなしいただいた、本会の原理事・広報部長にあらためて深く御礼申し上げます。



原理事・広報部長(中央)には大変ご尽力いただいた